

石狩西部広域水道へ

「わたしたちは、母なる川にサケがのぼる石狩の市民です」市民憲章前文の書き出しはこのように始まっている。市内には石狩川を始め125の河川が流れ、厚田、浜益区においては水道水源として活用し、サケがさかのぼり、田畑を潤す産業河川でもある。紅葉山49号遺跡は川水と人との語らいを伝え、証明してくれた

◆世界は爆発的人口の拡大とともに水不足問題が深刻化している。陸地の約4分の1が砂漠化の影響を受け、開発途上国の約9億人が飢えに苦しんでいると言われている。恐ろしい国内山林の外国人所有化は、未来への布石なのか、水探しの歴史は今日も続いている ◆ライバル(Rival)はリバー(River(rivus))からの派生語のこと。川の水を争ったことからの説、その一方で、良きライバルと使われるように、前向きな意をも有している。人類の知恵やルールの始まりを感じる。「水」の語源は諸説あるが、満は溢れる水を満たすこと、古来、安心、安全、恒久を水の旨としている。本市もこの問題を共有する自治体とともに未来を築くこととした。その時は間もなくやってくる。(市長)

広告